

オンライン  
受講選択可

《第七期 臨床仏教師養成プログラム》

# 臨床仏教 公開講座

## 講座スケジュール

※本講座は臨床仏教師養成プログラム通算第7期となります。

第1講 5/12(水) 18:00~19:30

### 新型コロナ時代における公衆衛生 — 縁起観に基づく共生社会 —

**内容** 新型コロナは現代社会に何をもたらしたのか。それは、人が生態系の頂点に立つという世界観の行き詰まりを露呈したようにも受け止められる。すべての生きとし生けるものは互いに支え合いながら存在しているという仏教の「縁起観」を基にした「共生社会」のあり方を考える。

**講師** 大井 玄(東京大学名誉教授)

第2講 5/26(水) 18:00~19:30

### さよならのない別れ — 突然の家族の死に向き合う —

**内容** 新型コロナ禍の中で多くのご遺族が、罹患した家族と直接対面できないまま見送らざるを得なかった。身近な家族を失ったその悲しみや怒りは、果たしてどのようにして癒されるのだろうか? 事故や自然災害の折にもしばしば遺族が直面する「さよならのない別れ」に接して、仏教者はどのような支援が出来るのだろうか。

**講師** 島菌 進(上智大学特任教授)

第3講 6/9(水) 18:00~19:30

### 生活困窮者に 寄り添うこと

— 格差社会の中での支援のあり方 —

**内容** 無縁社会と呼ばれて久しい日本の社会。経済的な格差が広がりにセーフティネットから抜け落ちていく人びとが多数存在する。高齢化する路上生活者に加え、新型コロナ禍以降、職場で雇い止めに遭う非正規雇用労働者たち。生活困窮者に寄り添う中で、現世を超えた「つながり」を見出す仏教者に学ぶ。

**講師** 吉水岳彦(臨床仏教研究所上席研究員)

第4講 6/30(水) 18:00~19:30

### 地域社会の再生へむけて — コーディネーターとしての僧侶の役割 —

**内容** 過疎化・高齢化・自死・孤独死—高度経済成長期以降、大都市への人口流出が進む農村地域社会にあって、抱えているその課題は多様かつ深刻なものがあつた。断ち切られた人と人との結びつき、こころとこころの「つながり」を回復するために、地域社会のコーディネーターとしての僧侶やお寺の役割について考える。

**講師** 袴田俊英(心といのちを考える会代表)

第5講 7/28(水) 18:00~19:30

### 切り捨てられる 技能実習生たち

— 「暮らせないから逮捕してくれ!」 —

**内容** 日本の労働力不足を補うため、多額の借金を背負いながら「技能実習生」として来日するベトナムの若者たち。しかし、新型コロナ禍の中で彼らの多くが雇い止めに遭い、その行き場を失っている。多数の若者が自死を選択している現実—。彼ら彼女たちを物心共に支えるベトナム人尼僧の活動に学ぶ。

**講師** ティック・タム・チー(在日ベトナム人仏教信者会会長)

第6講 8/25(水) 18:00~19:30

### 生きることをつなぐ いのちをつなぐ

— 犯罪被害者家族のグリーフケア —

**内容** 突然の暴力によってその命を奪われる犯罪被害者。ご家族の悲しみ・怒り・喪失感は計り知れないものがある。池田小学校殺傷事件の被害児童の母として、また、犯罪被害者の支援者として、長年にわたりご家族のグリーフケアにあたるその実践活動から、仏教者にどのようなサポートやケアが出来るのかを学ぶ。

**講師** 本郷由美子(下町グリーフサポート響和国代表)

第7講 9/8(水) 18:00~19:30

### いのちの声を聴く

— 終末期における「いのちのケア」 —

**内容** 「早く殺してくれないか」—終末期を迎えて生きる意味を失い、心身の痛みに苛まれるがん患者の方々。その姿を見て「何もできない」と感じるご家族の苦しみも筆舌に尽くしがたい。一人の人間として、臨床仏教師として、当事者やご家族の「いのちの苦しみ」(スピリチュアルペイン)に向き合い、寄り添うあり方を学ぶ。

**講師** 内山美由紀(東京慈恵会医科大学訪問研究員)

第8講 9/29(水) 18:00~19:30

### 「よかったね よく来たね」 — 子どもたちと共に育つ —

**内容** すべての子どもが仏の種をもってこの世に生まれてくる。それぞれの子どもを持つ特性も多様であり豊かなものだ。不登校やひきこもり等、既存の社会の価値観やシステムに息苦しさを感ずる子どもや若者は、ある意味で自分自身の時間を生きているのかもしれない。子どもたちの内なる力を育み、共に生きる方途を考える。

**講師** 和田重良(くだけ会代表)

第9講 10/6(水) 18:00~19:30

### 「寺子屋」子ども食堂の運営 — 若者たちによる子どもの支援 —

**内容** ひとり親家庭の相対的貧困率はおよそ5割にも及ぶ。地域社会が崩壊し孤立する中、そのしわ寄せは子どもたちへと向かってしまう。そのような状況の中、かつて地域社会の中核であったお寺が、今再び、若者たちと力を携え、困窮する子どもたちの支援を開始している。その協働のあり方に、これからのお寺や僧侶のあり方を学ぶ。

**講師** 松本智量(八王子市仏教会理事長)&地域大学生

第10講 10/20(水) 18:00~19:30

### 仏教者による災害支援 — 東日本大震災から10年を経て —

**内容** 多くの人命を失った東日本大震災から10年の歳月が過ぎた。しかしながら、未だ故郷に戻ることでできない被災者も多数存在する。被災地の復興支援のあり方は果たして適切なものであったのだろうか? 震災発生直後からの10年にわたる活動を振り返り、これから必要とされる仏教者による支援活動のあり方を考える。

**講師** 神 仁(臨床仏教研究所研究主幹)

私たちが生きる社会

私たちが抱く想い

生・老・病・死の「いま」を知る

「いま」を考える

## 人びとの「いのち」に 寄り添うために